

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立白岡高等学校)

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。 2 学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。 3 生徒一人一人の、自立する力を育む進路指導を推進する。 4 豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	13名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月 1日 現在)		
年度	目 標	学 校 自 己 評 価	年度評価	達成度	次年度への課題と改善策		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導して」の肯定的評価が、1,2年生74%、3年生は86%とあるように、授業に対する満足度は概ね高いが、特に1,2年生に対する学習指導にさらなる改善が必要である。 ・生徒の学力実態に応じた指導や学習サポーターによる補習や授業支援は、欠点保有者の減少に成果をあげている。また、成績上位者支援のための進学補習は計画的に実施できているが、「学力向上プロジェクトチーム」は機能しているとは言えない。	・教員一人一人が授業改善に取り組み、生徒の学習意欲を高める工夫を行っているか。 ・生徒の学力に応じた学習環境を整え、基礎学力の定着と上位層の学力向上に取り組む。	①年間2回の授業公開・研究週間において、各教科ごとの研究授業・研究協議等を行う。 ②教員が授業改善に関する研修会・研究会へ参加する。 ③各教科・科目で適切かつ効果的な小テストや課題付与を実施する。 ④学力向上プロジェクトチームと連携し、高い志を持つ生徒への進学補習等を実施する。 ⑤学習サポーターを授業や補習に活用し、特に数学での基礎学力を高める。 ⑥指名補習や学習会を実施する。 ⑦「全ての教室へ新聞を運動」に参加	①学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導して」の肯定的評価を80%以上とする。 ②協調学習をはじめとした授業改善に関する研修会・研究会への各教科からの参加。 ③長期休業中の課題の提出率を100%とする。 ④進学を目的とした補習等に参加する生徒を増加させる。 ⑤1年生の7割が数学学習到達度「中学生以上」とする。 ⑥各学期の欠点保有者を各学年20名以下とする。 ⑦生活実態アンケートにおける「新聞を毎日読むか」肯定的評価50%以上とする。	・授業公開の実施などを通して授業改善に取り組むことができた。 ①アンケート結果では、1,2年生74%、3年生56%が肯定的に回答している。 ②「未来を拓く学びプロジェクト」に5名の教員が参加し全果対象の公開授業を実施した。また、初任者2名も協調学習の研究授業を行う(4回)など、授業改善の研修が推進された。 ・生徒の学力に応じた環境整備と指導を実践することができた。 ①課題の提出についてはほぼ全員が提出している。 ②参加者は昨年並みであるが生徒のニーズに合った進学補習を実施することができた。 ③1年生において数学の学習到達度「中学生以上」は78%であった。 ④1学期、1年18名2年25名3年10名、2学期1年29名2年20名3年27名。全体的には昨年度よりも実人数は減少している。 ⑤アンケート結果では14年20%25年28%が肯定的な回答をしていた。	B	生徒の授業に対する意欲を高めるために、協調学習をはじめとした授業改善に関する取組を推進する必要がある。
2	・地域の行事への積極的な参加や活発な奉仕活動によって、保護者や地域住民、白岡市との連携は深まっている。ホームページの更新100回以上、TSメール配信は30回以上行ったが、アンケート項目で「情報発信に対する評価」の肯定的評価は75%であった。 ・学校説明会の参加者が15%増加し、平成27年度、28年度入学者選抜において、2年連続で志願倍率が1倍を上回ったが、さらに効果的な生徒募集活動の展開が課題である。 ・創立30周年事業として始まった国際交流事業は白岡市等の協力を得て10周年を迎えられた。	・教育活動や部活動に関する情報発信の手段を工夫する。 ・学校説明会の実施方法を改善し続けるとともに、中学校教職員、生徒、保護者への情報提供を工夫し、本校教育の特長を周知徹底する。 ・PTA後援会・白岡市内中学校や地域の方達の協力により、受け入れ派遣、交流事業を実施する。	①ホームページの更新年間100回以上、メール配信20回以上とし、積極的に学校の情報を発信する。 ②新聞や市の広報誌等にも情報を広く発信する。 ③高大連携事業を推進する。 ④40周年記念事業を実施する。 ⑤地域行事への参加を継続する。 ⑥全職員による生徒募集研修会、中学校訪問を実施する。(年3回) ⑦年5回の学校説明会において部活動体験や入試対策講座を実施するとともに、本校生徒を活躍させる場面を多く作る。 ⑧地元からの志願者を増加させるために、地域中学校等への出前授業などの機会を増やす。	①評価アンケートにおける項目「学校からの情報提供への満足度」の肯定的評価85%以上とする。 ②新聞、広報誌への掲載回数を年間15回以上にする。 ③女子栄養大学との連携事業を実施する。 ④新白岡駅壁画作成等で本校の良さをPRできたか。 ⑤地域行事への参加が継続できたか。 ①入試志願倍率が普通科、情報コミュニケーションコースともに1.1倍を上回る。 ②学校説明会の参加者を10%増加させる。 ③地元からの志願者を10%増加させる。	・本校の教育活動や部活動に関する情報を効果的に発信することができた。 ①ホームページの更新100回以上、TSメール配信20回以上行ったが、アンケート項目では、1,2年生74%、3年生72%が肯定的評価(保護者)であった。 ②新聞掲載21回、市の広報誌にも多数紹介された。 ③女子栄養大による出前講座、運動部に対する栄養指導など、昨年度以上に高大連携が進んだ。 ④40周年記念事業では、PTA、後援会、同窓会の協力を得て、成功裏に終了した。美術部による新白岡駅の壁画も好評である。 ⑤部活動や有志の生徒を中心に様々な交流を実施した。 ・学校説明会等への参加者は増加しているが、引き続き目標値の達成に向けて取り組んでいる(2月1日現在) ①全職員による年3回以上の中学校訪問を実施した。 ②学校説明会参加者数は昨年度並みである。 ③地元中学校への出前授業は1回、白岡参観には100名を超える市内の中学生保護者が参加した。	B	保護者や中学生が求める情報を精査し、より効果的で、迅速に発信する必要がある。
3	・生徒や保護者の進路指導に対する評価は高く、生徒90%、保護者90.4%が肯定的な回答をしている。就職においては内定率100%を達成した。99%の生徒が進路を決定して卒業している。 ・生徒には、各自が希望している進路先の現状を十分に理解させ、自己の適性や能力も考慮した上で、意欲的な態度で、よりよい進路選択ができるよう指導することが課題である。	・生徒が自分の興味関心、適性及び能力を踏まえて的確な進路選択ができるよう指導を行う。 ・より高い進路意識を持ち、チャレンジする精神を育成する。	①進路オリエンテーションや進路ガイダンス及び就職指導の内容を充実させる。 ②企業訪問や、入試説明会に積極的に参加し、有益な情報を生徒に提供する。 ③指定校枠の活用、新しい指定校、就職先を開拓する。 ①自己の進路に対する意識を向上させ、意欲的に取り組む姿勢を育成する。	①フリーター0名、就職内定率100%を維持する。 ②生徒、保護者対象の学校評価アンケートにおける項目「進路結果についての満足度」で肯定的評価90%以上を目指す。 ③重点指定校の決定率50%以上及び新しい指定校の獲得、新規の求人開拓を行う。 ①学校評価アンケートの項目「将来の希望(夢)を実現するために努力している」で肯定的評価70%以上とする。	・各学年と連携し、系統的で適切な指導を行うことができた。 ①厳しい就職情勢の中で、就職内定率100%を達成することができた。 ②アンケート項目の「進路満足度」については、生徒71%、保護者75.5%が肯定的な回答をしている。 ③指定校決定率58%、2年度3学部に来年度以降の指定校を依頼、新規の求人開拓は十分ではない。 ・進路に対するに高い意識を持たせる取組を実践した。 ①アンケート項目における肯定的回答は、1年70%、2年68%、3年65%であった。	B	生徒一人一人の興味・関心・適性及び能力を考慮し、将来の職業を意識した進路指導を継続していかねばならない。同時に1年次からきちんとした学校生活を送らせるような指導(特に欠席)も重要である。
4	・基本的な生活習慣が守られ、元気の良い挨拶ができる生徒が多く、部活動、学校行事も活発に行われ、成果をあげている。一方で精神的に不安定で支援の必要な生徒の入学も増えている。 ・種々の教育活動を通して達成感を抱かせ、自主自律の精神を育成することに加え、生徒個々の実態を把握し、教育相談体制を整備することが課題である。昨年度は、教育相談委員会が発足し、スクールカウンセラーによる相談を計画的に実施することができた。 ・保健施設部や事務室の適正な指導によって良好な学習環境が整備されているが、さらに校内美化に努める必要がある。	・教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践を通して、充実した学校生活を送れる環境づくりに、引き続き取り組む。 ・教育相談体制をさらに機能させ、支援の必要な生徒の把握・情報の共有・支援に取り組む。 ・清掃指導を徹底し、校内美化による良好な学習環境作りに取り組む。	①生徒指導部会や職員研修を通して、生徒指導に関する共通理解を深め、いじめや問題行動等の早期発見、早期解決に努める。 ②部活動において生徒と関わる時間を増やし、技術力の向上、チーム力の向上を図るとともに、生徒の人間形成を主眼とした活動を推進する。 ①各学年からの情報を全職員が共有し、効果的な教育相談を展開する。 ②共生社会育成拠点校として、支援の必要な生徒へのサポートを推進する。 ①毎日の清掃指導や、定期的な清掃用具の整備を実施する。	①いじめゼロ、生徒指導人数10名以内とする。 ②県大会以上の大会に出場する部活動11部以上、県入賞3部以上、県大会ベスト16以上5部とする。 ①中途退学者を10名以内にする。 ②高相研やカウンセリング、特別支援教育に関する研修会へ積極的に参加する。 ①校内公開行事等において、校内美化に関する項目に良い評価が出ているか。	・教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践を継続し、生徒の成長を支援することができた。 ①いじめの認知件数は25件、生徒指導人数は5件8名であった。 ②随上部が関東大会出場(2人)、吹奏楽部が県コンクール銀賞、部活動で県大会以上の大会等に12部が出場し、県大会入賞2部、ベスト16以上に1部であった。 ・教育相談委員会が機能し、スクールカウンセラーによる相談を計画的に実施することができた。 ①中途退学者は3名(2月1日現在) ②共生社会育成拠点校として、支援の必要な生徒へのサポートを推進することができた。 ・校内美化を徹底し、校内の美化に取り組んだ。 ①全体的に校内美化が進んだが、清掃が行き届いている場所と、さらに取組を強化すべきところがある。	B	いじめの新認知規程のもとでも、いじめゼロを達成するためには、現在よりもより細かな場面での生徒観察・指導が必要と考えられる。現在2学期に行っているいじめ監査アンケートの実施回数を増やす等の改善が必要である。 クラス減に伴う部員の減少なども鑑みて、部活動の再編成を念頭においた評価指標を作成する必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成29年2月8日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・協調学習などの授業改革の取組は、今後とも是非継続してほしい。 ・前年度の生活実態調査の結果を生かし、各クラスに新聞を配置していただいた。有効に活用しているクラスもあり、新聞にも紹介されたということで、これは大変良い取組である。	
・「地域との絆」については、白岡高校の生徒は市のイベントにも数多く参加している。白岡まつり、市内中学校との合同コンサート、新白岡駅の壁画等々、本当に地域密着型の活動を行っている。「おらが町の高校」として、生徒の姿がよく見える。 ・学校説明会の際に、生徒から直接学校の良いところを聞くことができた。この取組は効果的である。 ・いろいろと工夫をして生徒募集を実施しているようだが、中学1、2年生に対して生徒募集活動を実施するのも効果的であると思われる。	
・大学進学について、世の中は国際化や情報化の流れがある。白岡高校でも、この潮流に乗った指導を展開してほしい。 ・白岡高校の進路指導は入学時から徹底していて、かつ丁寧に実施されており、成果においてもすばらしいものがある。 ・指定校の新規開拓は生徒にとっても励みになる取組である。	
・退学者が3名ということで、毎年減少しているが、目標は0名で取り組んでほしい。 ・いじめについては是非根絶してほしい。対応や取組をオープンにして、これまでの指導を生かして、手本となってほしい。 ・白岡高校の生徒はあいさつがすばらしい。地域からも高い評価を得ていると思う。生徒指導の件数も他校に比べると少ない。さらに良い環境作りに取り組んでほしい。 ・インクルーシブ教育によって、障害のある生徒にとっても明るく活動のできる学校として継続的に取り組んでいることは評価できる。	